支援センター名	中条町体験活動等支援センター
所 在 地	〒959-2643　新潟県北蒲原郡中条町東本町16番66号
連 絡 先	Tel　　0254-43-2001　　Fax　0254-43-3471

事業の概要とポイント

子どもたちの社会性や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむために、その成長段階に応じ、学校内外を通じた多様な奉仕活動・体験活動を行うことが重要であることから、体験活動等の総合的な推進のための中条町体験活動等支援センターを設置した。センター内にコーディネーターを配置し、相談に応対し、迅速に情報を提供し、よりニーズに応えることを目的としている。

関係した学校・団体等の名称

中条町内全小・中学校（中条小学校、本条小学校、柴橋小学校、築地小学校、きのと小学校、中条中学校、築地中学校、乙中学校）

婦人会、自主活動グループ、地域子ども会、町内の企業

地域の現状・特色

地域の活動対象の中条町の人口は約 27,400 人である。

中条町は、新潟県の穀倉蒲原平野の北端に位置し、東は胎内川県立自然公園の一部をなす櫛形山脈（最高峰 568 メートル）、西は日本海（海岸 15 キロメートル）に沿って砂丘が連なり、中央部は胎内川扇状地と旧紫雲寺潟干拓地からなっている。

東にそびえる櫛形山脈の山裾と、日本海沿いに発達した砂丘内陸には、縄文時代から平安時代にわたる、遺跡の分布が知られている。

昭和 63 年には自治体として初の米国大学を誘致し「創造性豊かな国際文化都市」を目指している。町全体で「あいさつ運動」に長年取り組み、成果をあげている。

企画から活動までの経緯

平成15年 4月　・中条町体験活動等支援センターにコーディネーターを採用
・支援センターの計画作成と広報用「パンフレット」の作成

5月　・中条町校長会にコーディネーターが出席
・体験活動等支援センターの仕事内容の説明
・学校の協力と理解のお願いとコーディネーターの紹介

6月　・コーディネーターが各学校へ「パンフレット」を持参し配布
・地域子ども会会長に「パンフレット」を配布
・日立工場・水沢化学・乙宝寺へ依頼の件で訪問

7月　・各学校より依頼が入り始める
・乙小学校へ「達人探し」の総合学習にコーディネーターが参加
・地域子ども会から体験活動の行事について相談を受ける

8月　・依頼された件について情報収集
・講師紹介・地域の達人探し・胎内川の地図の提供・会社訪問

9月　・一学期に依頼された件について「支援センター便り」を製作
・各学校を回り、「支援センター便り」を配布

10月　・総合学習のゲストティーチャーとして授業に参加
・中学校の文化祭「総合学習発表会」、「サポート委員」への参加

11月　・北蒲原郡内町村奉仕活動・体験活動支援センター連絡会に出席
・県の研修「体験活動プログラムを作りましょう」に出席

12月から2月
・「外国文化を知ろう」で外国人を紹介
・町内の小学校より「外国の食生活を知ろう」の講師紹介（事例）
・中学校の総合学習「外国の文化を知ろう」に参加

平成16年度も同じように実施
講師の依頼・町の名人・外国人の紹介・先生方の活動の研修など

事例の展開内容（特色など）

・学校側と講師の間に立って、コーディネートがマッチングした事例

【平成 16 年 1 月 16 日（金）町内の小学校 5 年生担任より依頼】

「総合学習で「外国の食文化を知ろう」で外国の料理を教え、その国の食文化について話をしてくれる人を紹介してほしい」

活動１　すぐに人材を探し始めた

・イリノイ大学の学生、教授　・日本人と結婚した外国人（タイ、フィリピン、スリランカ、中国人）　・中国の方

※今までの人材リストや、公民館の情報をもとに人材を収集するが、実際に、料理を教え、食文化について話をしてくれる人はみつからなかった。

活動２　公民館で中国の方に日本語を教えている講座があるので、その担当者にコンタクト

を取った。

※公民館活動での講座で、「中国の餃子作り」実施したとの情報を得たので、日本語の講座の方に連絡を取り、その講師から了解を得た。

【1月20日（火）学校へ連絡をする】

活動3　「中国の餃子作り」ではどうかを学校側へ打診をした

※学校側から「中国の餃子作り」を実施したいとの連絡があった。

【1月22日（木）中国の方と日本語講座の方と打ち合わせをする（公民館）】

活動4　中国の方と、日本語講座担当者と内容について打ち合わせをした

※中国の方から、子どもたちに教えるには初めてなので、「手伝ってくれる人と通訳の人も一緒に行ってほしい」との要望があった。要望に沿うように学校側に連絡を取り了解を得た。

【1月27日（火）小学校へ中国の餃子作りの詳細を連絡】

活動5　学校側の要望を中国の方に伝え、調整を図った

※学校側は1組、2組一緒に活動したいとの要望であったので、中国の方と連絡をとった。50名では多すぎるので、1組･2組をそれぞれで実習をやってもらうように学校側に伝えた。学校側からは、質問の時間を取りたいとのことで、その旨を中国の方に伝えた。

【1月29日（木）日時や活動について、学校側と中国の方と連絡調整をした】

活動6　詳しい時間や、内容について学校側へ連絡を取った

※餃子作りのレシピを学校側へ送り、材料・道具、グループの人数確認などの打ち合わせをした。中国の方より、「子どもたちからの質問を前もって知りたい」との要望があったので、質問を学校より取り寄せ中国の方に送った。

【2月10日（火）中国の餃子作り実施日　5年1組】

活動7　中国の方々と通訳の人を案内して小学校へ行った

※中国の方々から、コーディネーターも一緒にとの要望があったので参加した。中国の方々は、ニコニコと子どもたちに接し的確に進めてくれた。5年生の子どもたちは明るく人懐っこく講師の方に話しかけながら活動しているので、中国の方々も気持ちが楽になったようであった。

【2月12日（木）5年2組実施日・子どもたちの質問に答える時間を実施】

活動8　2回目の餃子作りのため、小学校へ行った

※9時より30分程度、1、2組一緒に質問の時間を取った。質問が前もって、中国の方に渡っていたので、時間的のロスがなく進められた。その後、2組の餃子作りをした。中国の方も2回目なので余裕を持って進められた。

【2月26日（火）学校側から先生と子どもたちの礼状が届いた】

※小学校の子どもたちの文面から、外国の文化に触れた喜びが感じられた。

男子児童からの礼状

「餃子の作り方を教えてくれてありがとうございました。とってもおいしかったです。僕はこんなにおいしい餃子が中国の主食だと知ってうらやましいなあと思いました。それに中国では、餃子といっしょにまんじゅうを食べるというのも初めて知りました。中国の方と一緒に作った餃子作りはとても楽しかったです。」

活動するうえでのポイント、留意点など

センターで情報を提供した後、その情報がニーズにあって利用されたかどうか分からなかったことが問題であった。「中国の餃子作り」は、学校側と講師側との間に立って、両者が、打ち合わせの時間をとることなく実施できた。このことは、問題点も解決することになったし、両者からも感謝された。

コーディネーターが講師と一緒に学習に参加することは、講師の方々の学校への抵抗感を少なくしたこと、コーディネーターが学習の内容を把握する点で、次の依頼に対して紹介の参考になった。

センターへの要望に対して、迅速に対応するために、公民館や社会福祉協議会などの活動から、人材バンク等を作り情報を収集していく必要性を感じた。社会教育と総合学習は連携できる分野が多いので、それぞれのニーズを把握し、積極的にセンターは、コーディネートしていくことが大切である。

評　価

15 年度は、主に広報活動に力を入れた、学校を訪問するにつれて、支援センターやコーディネーターの存在が明らかになり、利用する学校が増え始めた。コーディネーターは、要望に迅速に対応したので、利用した団体からは、大変ありがたかったとの感謝の言葉が多く寄せられた。年度末に、各学校から、「総合的な学習の時間」の活動内容調べを提出してもらい、それが即人材バンクとして利用できたことは有意義であった。

16 年度は、前年度の実績から、学校側からもその便利さ理解し、利用する学校が増えた。センターも情報を収集し、すぐに対応できるようになった。中条町は学校からの依頼が主なものであった。教職経験を有するコーディネーターを採用したことが、役立った。それぞれの町には、多くの人材等が埋もれており、それを学校側や地域の子ども会に情報を発信する上で支援センターの存在は大きかったといえる。

執筆者職・氏名：中条町体験活動等支援センター･コーディネーター　石山令子